

## 2023年度第1回充填関係基準分科会 議事録

1. 日 時 2024年3月21日(木) 10:00~11:00
2. 場 所 一般財団法人 石油エネルギー技術センター (Web 開催)
3. 出席者 (※は Web 参加)  
委員： 山梨主査※、高野委員※、名取委員※、西井委員※、判田委員※、  
前原委員※、山本委員※、蓮仏委員※  
オブザーバー (HySUT)： 吉田様※  
事務局 (JPEC)： 小出、河島、今岸、小野、鈴木
4. 議 事
  - ① JPEC-S 0003 (2023) (追補案)の審議
  - ② コメント等募集方法について
5. 配付資料  
資料23-01-00 2023年度第1回充填関係基準分科会議事次第  
資料23-01-01 2023年度充填関係基準分科会委員名簿  
資料23-01-02 令和4年(2022年度)第2回充填関係基準分科会議事録(案)  
資料23-01-03 第1回充填関係基準分科会の審議事項について  
資料23-01-04 圧縮水素充填技術基準(圧縮水素スタンド関係) JPEC-S 0003(2023)(追補案)  
資料23-01-05 追補表  
資料23-01-06 正誤表  
資料23-01-07 コメントシート  
資料23-01-08 コメントシート記入例
6. 議事内容
  - (1) 開会
    - ・ 出欠状況は9名中8名出席(1名欠席)であり、分科会の成立を確認した。
    - ・ 事務局による開会挨拶、配付資料の確認、資料 23-01-01 を用い委員紹介を行った。
  - (2) 前回議事録の確認  
資料 23-01-02 を用い、前回の議事の確認を行った。既に当該会議終了後に本案は確認要請を一定の期間を置いて行っており、異論等もなかったこと、本会議においても特に修正意見もなかったことから本議事録(案)は承認された。

(3) JPEC S-0003 (2023) の例示基準引用について

JPEC-S 0003 (2023) の例示基準への引用状況について説明した。

(4) JPEC-S 0003 (2023) (追補案)の審議

資料 23-01-03 を用い、追補版発行の経緯、本分科会での審議対象について説明した。その後、資料 23-01-04～資料 23-01-06 を用い、具体的な追補及び修正箇所について説明した。主な質疑内容は以下。

委員：(今回の内容は)改正ではなくて、追補という説明をいただいたかと思うが、法技術検討委員会で審議済みということの時系列を再度説明願いたい。例示基準に(JPEC-S 0003 の)2023年版が引用されたのが昨年の12月かと思うが、それよりも前に、法技術検討委員会では審議がされたということか？

事務局：例示基準がこの基準を引用したのとして改正されたのは昨年の12月21日である。これの更に遡ること2年前の令和4年12月22日に(法技術検討委員会が)開催されて、こちらで説明して承認をいただいたということだ。それにも関わらず、この説明内容を反映しないままに現在JPECのWebサイトで掲載されているJPEC-S 0003(2023)はこの柱書の部分を既に認められた内容にも関わらず掲載しないまま発行してしまったので、これを追補するということである。

委員：了解した。誤記に相当するイメージということか？

主査：誤記相当の記載漏れという理解だ。

委員：(ご説明に)感謝する。

オブザーバー：配管熱容量については、実測するのではなく、重量換算での比例配分で済ませられないか。こういった内容はこれまで議論してきていないが、今後必要となっていくのではと考えている。

委員：BA、ノズルは、重量を測ってSUS換算すると100%を超える。

オブザーバー：超えたら100%として扱えば良い。

委員：承知した。

主査：今回この件についてはこのまま(今後の議論の対象で、今回は対象外)ということで進めさせて頂く。

(5) コメント等募集方法について

資料 23-01-03 P.5、資料 23-01-07、資料 23-01-08 を用い、分科会終了後の予定、コメント募集及び書面投票要領について説明した。

## 【追記】

分科会指摘反映版へのコメント等募集（2024年3月21日～4月4日）に対し、以下のコメントが挙げられた。主査と事務局で内容を精査し、修正要望を反映させたJPEC-S 0003（2023）追補案をメールにて各委員に配付の上、書面審議投票を行うこととなった。

### コメント内容及び対応

- ① 同意の「車載容器」と「タンク」が混在している。また「タンク」と「車両タンク」も混在している。  
⇒「車載タンク」に統一する。
- ② P. 9 「初期ガス温度」、「オーバーヒートする恐れ」は場所を特定したほうがよい。  
⇒「車載タンク中の初期ガス温度」、「車載タンク側でオーバーヒートする恐れ」とする。
- ③ ほぼ同意の「容量」と「容積」の使い分けを。  
⇒「容量」に統一する。
- ④ P. 113 以降のフロー図 作成した担当者と確認者名が記載されている。  
⇒担当者及び確認者名を削除する。
- ⑤ P. 160 248.L → 248.6L  
⇒指摘の通り修正する。

以上